

## 高齢者複合施設紹介・1

# 日本赤十字社総合福祉センター

医療と介護の連携があるから、  
たくさんの笑顔に出会える場所。



介護老人保健施設の個室。玄関扉のデザインや内装を部屋ごとに変えて、「自分の空間」であることを意識できるようにしている。

「日本赤十字社総合福祉センター レクロス広尾」は、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、高齢者グループホーム、障害者支援施設および居宅介護支援事業所(各種在宅ケアサービスなどを展開)からなる、複合的な福祉施設です。施設のキャッチフレーズは、「たくさんの笑顔に出会える場所」。医療と介護がしっかりと連携した新たな施設は、高齢社会に向けた確かなモデルを指し示しています。



総合福祉センターの外観。左に見えるのは医療センター。

### 【日本赤十字社総合福祉センター】 レクロス広尾

- オープン年月/2012年4月
- 所在地/東京都渋谷区広尾4-1-23
- 施主/日本赤十字社
- 設計/株式会社久米設計
- 敷地面積/6,130.32㎡
- 延床面積/18,730.00㎡
- 構造規模/鉄骨鉄筋コンクリート造、  
地下1階、地上8階



屋上庭園ではトマト、スイカ、ナス、カボチャ、キュウリなどを栽培。グループホームの人たちが水やりなどの世話をしている。

施設案内図	塔屋	屋上緑化
	8F	特別養護老人ホーム(20人)
屋上庭園	7F	特別養護老人ホーム(20人)
特別養護老人ホーム(20人)	6F	特別養護老人ホーム(20人)
特別養護老人ホーム(20人)	5F	特別養護老人ホーム(20人)
介護老人保健施設(20人)	4F	介護老人保健施設(20人)
介護老人保健施設(30人)	3F	介護老人保健施設(30人)
高齢者グループホーム(18人)	2F	障害者支援施設(11人)
デイサービス(42人/日)/食堂/売店	1F	デイケア(40人/日)/事務室/居宅介護支援事業所
厨房/駐車場等	B1F	機械室/電気室等

医療センターと直結  
渡り廊下



建物配置イメージ図

## 保健、医療、看護、福祉のサービスを展開する新しい都市型モデル。

高齢社会において、整備が遅れている都心部でも、地域の人々に安全・安心な介護福祉サービスを提供できる拠点をつくりたい。そんな思いのもとで、日本赤十字社は2012年4月、渋谷区広尾に、保健、医療、看護、福祉のサービスを展開する新しい都市型モデルとして、総合福祉センター「レクロス広尾」を開設した。医療センターや看護大学に隣接したエリアで、医療と介護の連携をとりながら、入居者の立場に立った細やかなサービスを提供。個人の尊厳を大切に、どんな身体的状況においても「その人らしさ」を支えることで、利用者一人ひとりに笑顔が生まれる。いろいろな身体的状況の方が入居されているが、「病院が隣にある安心感は大い」という声が多く寄せられるなど、複合施設であることの意義ははかりしれず、相互にノウハウを蓄積できることも大きなメリットとなっている。



デイケアセンターにはさまざまなリハビリ機器も備えられている。



8Fの見晴らしのよい大浴場には、ジャグジーやヒノキ浴槽などを設置。

## 高齢者グループホームの施設サービス

- 定員：18名(全2ユニット)
- 渋谷区在住の要支援2から要介護と認定され、かつ認知症と診断された方が対象。他の入居者との共同生活ができるようお手伝いする。
- 1ユニット9人の小規模単位によるユニットケア。入居者とスタッフがみんなで料理をつくったり、催し物に参加するなど、家庭的な雰囲気の中で暮らしが支えられている。



トイレの左右に型手ずりが設置されている。



くつろぎに満ちた個室が暮らしを支える。



香りのよいヒノキの浴槽も設置されている。



アイランド式キッチンで料理づくり。



キッチンの奥には和室のような空間も。

## 障害者係長さんからの声

一人ひとりが、いきいきと暮らせる「広尾村」へ。



福祉事業部 生活支援課  
障害者係長  
障害者支援施設 レクロス広尾  
村松和繁さん

老朽化した医療センターや看護大学の再建整備事業とともに、総合福祉センターを新しく立ち上げました。高齢者や障害者のために、館内にさまざまな役割があるだけではなく、敷地全体の中に病院や看護大学、保育園、乳児院があることを、私たちは一つの「広尾村」をつくっていると考えています。ここでは、小さなお子さんから、いろいろなステージのお年寄りの方まで、本当にさまざまなプロフィールの人たちが、安心していきいきと暮らすことができる…そんな理想に近づいていきたいと思っています。

## 健康医療事業部・副部長さんからの声

一人に一つのトイレは、人間の尊厳を守ること。



健康医療事業部 副部長  
看護師  
大橋雪英さん

部屋ごとにトイレを設けたのは、やはりトイレへ行くことには我慢ができないからです。共用トイレでは待たされることもありますから、ホテルみたいに個人の領域に快適な空間があって完結するのがいちばんいい形だと思いますね。そして、おむつを使う方であってもトイレで排泄したいという希望をかなえることが、人間の尊厳を守ることにもつながると思います。人は、心地よい時に笑顔が生まれます。ですから、良いケアのないところには、笑顔は生まれません。人と人との交わりを大切にしていきたいですね。



さまざまなタイプの部屋がある介護老人保健施設。車いすでも使いやすい洗面カウンターも。



共用の浴室には、リフト浴や機械浴などのタイプもある。



老健の  
個室トイレ

老人保健施設の個室のトイレ。すべてを保護しなくてもよいという判断で、背もたれは設置していない。必要以上の手すりはいらぬという意見もあり、手前は跳ね上げ式を採用している。

## 介護老人保健施設では、在宅復帰を前提に、リハビリも考慮したトイレを設置。

3・4Fの介護老人保健施設では、在宅の生活への復帰をめざしてサービスを提供。そのトイレは、特別養護老人ホームのトイレよりもやや広く、リハビリができるように、少ない介助でも安全に動けるように考慮されている。キーワードは「後方介助」。スタッフが入居者の後方から介助することで、小さな動きで車いすから便座へと楽に移乗することができるように考えられている。特別養護老人ホームや障害者支援施設でも、トイレに十分な広さを確保するとともに、同様のレイアウトとなっている。

### 介護老人保健施設の施設サービス

- 定員：100人（ショートステイは空室利用）
- 病状が安定していて病院での入院治療の必要がない要介護1～5の方で、リハビリテーションを必要とされる方が対象。
- 4Fは1グループ10人の全室個室、3Fは1グループ15人の4人部屋と個室を組み合わせた家庭的なケア。

### 介護老人保健施設の施設長さんの声

医療から介護、そして在宅への橋渡しになりたい。



健康医療事業部 部長  
医師 / 医学博士  
介護老人保健施設  
レクロス広尾 施設長  
宮下和久さん

私が急性期病院である医療センターの医師だったこともあり、医療を受けた方がその後どう生活できるかということは、とても大きなテーマでした。介護老人保健施設には、急性期病院に入院された方が、病院医療から介護施設、そして在宅へと戻るための中間施設としての役割が期待されています。ここではご家庭にいるような、なじみのある小規模のユニットケアが基本。多くの職種のスタッフが協力しチームワークを発揮しながら、利用者の笑顔が見られるノウハウを、みんなで共有していきたいと思っております。



### 介護者は後方からの介助を基本としている

介護老人保健施設の共用トイレ。車いすから自力で立ち上がり、手すりにつかまって移乗できるように考えられている。なお、入居者の身体状況に合わせて使ってもらえるように、左右勝手両方のトイレが用意されている。

### 介護福祉士さんからの声

移動距離が短くてすむトイレも、大きな安心の一つ。



介護福祉士  
竹内かおりさん

特に共用のトイレ空間は広く、車いすの回転が少なく移動距離が短く、スタッフへの負担も少ないです。衣類の上げ下げも含めて、介助しやすいことはとてもうれしいですね。それに、トイレは節水型で、清掃がしやすいのも大きなポイントです。私がいつも心がけていることは、一日一回は必ず、入居者さんに笑顔になってもらえること。先日のお誕生日会では、入居者のご家族の方がお手伝いでホットケーキを焼いてくださって、とても助かりました。そういう楽しい交流の機会も、もっと増やしたいですね。

特養の  
個室トイレ



特別養護老人ホームの個室のトイレ。介護老人保健施設とは異なり、前方アームレストやアームレスト、背もたれなどを採用している。特養では座位の保持、老健では立位の保持に重きを置いたと言える。



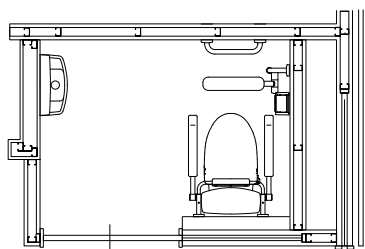
特別養護老人ホームの個室は、介助のしやすさにも配慮。



特別養護老人ホームの共用部に設けられたトイレ。

特別養護老人ホームでは、  
より座位を安定させるトイレに。

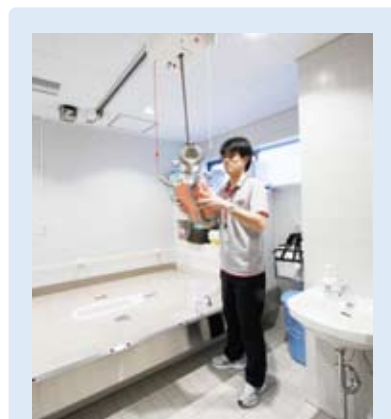
身体状況に応じた安全を考慮し、特別養護老人ホームでは、介護老人保健施設とは異なる設備を採用している。



特別養護老人ホーム 個室トイレ

特別養護老人ホームの施設サービス

- 定員：110名(全11ユニット)
- 要介護1～5で常時介護を必要とする方に、日常生活(食事・入浴・排泄などの介護、趣味活動など)のお世話と健康管理を行う。
- 全室個室で1ユニット10人の小規模単位によるユニットケア。



横になったまま利用できる座式トイレを用意。

障害者支援施設における  
生活介護・施設入所支援サービス

- 定員：10人
- 諸条件に当てはまる障害のある方の日常生活が快適に送れるよう、身体状況に応じて支援を行う。全室個室。



心のオアシス、リラクゼーション室。



レバーハンドルで操作性に優れ、トルネード水流で流れがよく、汚れの付きにくい汚物流し。水はねが少なく、小柄な女性スタッフでも使いやすい高さもたいへん好評である。

特別養護老人ホームの施設長さんの声

家庭的な雰囲気の中で、便利な動線を確保している。



福祉事業部 副部長  
特別養護老人ホーム  
レクロス広尾 施設長  
岩田文夫さん

特別養護老人ホームが、介護老人保健施設と異なるポイントの一つは、木のお風呂を導入していること。家庭的な雰囲気を、老健よりもさらに強く打ち出していると言えると思います。個室は介護用のベッドを壁に付けずに3方向から介助できるようにするとともに、ベッドを窓面と平行に置いても車いすが通れる幅を確保するなど、動きから空間の広さを割り出しています。各室が異なる内装としていますが、ご自分の家具を持って来られて、本当にお家にいるように過ごされている方も多いですね。

設計担当の方からの声

「自分の空間」であることを意識できるようにした。



株式会社久米設計  
設計本部  
医療福祉設計部 席主査  
岡田真人さん

全体のレイアウトではスタッフステーションの位置など、スタッフがユニットの中で動きやすく、入居者さんに目が行き届きやすいことを重視しました。居室については、スタッフの方の意向を受け、床、壁、天井、建具、照明など、内装のバリエーションを変えて個別化をはかりました。シンプルもあれば、花柄もある。「自分の空間」であることを意識してもらえるようにしたんです。トイレの手すりをどの程度まで設置するかなどは、最後まで議論しましたが、福祉施設は、答えをまとめることが難しいと感じましたね。